

この本と私

読むことで、気付くこと

書くことで、判ることがある

「人生は五十からでも変えられる」

平岩正樹著

著者は、がん治療を専門とする現役の外科医。さじ加減の抗がん剤治療をモットーに、外部の患者向けにがん相談室を開設するなどマスコミでも取り上げられている方です。この本には、平岩氏が53歳で3度目の東大入学を果たした事を機に、衰えた体力を回復させるためにトライアスロンにチャレンジしたという経緯が綴られています。入学時の体力テストで3分間の踏み台昇降が出来なかったことから、一気に飛躍してトライアスロン参加を決意したのです。プールに入っても20分が泳げない、自転車も何十年も乗っていない、移動はタクシーばかりだった状態からのスタート。ジムに通い筋トレ、2キロ以上のランニング、深夜の自転車走行を3年間続けた結果、フルマラソンを完走するまでになります。

しかし、年寄りの冷や水か、解離性動脈瘤、膝痛に悩まされます。幸い、動脈瘤は専門医に従い大事に至りませんでした。それでも、レースへの情熱は諦めないのです。それは、担当する患者が亡くなっていく経験から、健康へのありがたさを本当にわかって患者に接するのが医者としての責任であると悟ったから。三宅島トライアスロンでは、隠れて膝に麻酔薬を5本も打って完走するなんて、正気の沙汰ではないと思いました。最初は踏み台昇降も出来なかったのに、トライアスロンを完走するとは・・・、50からでも一念発起して成せば成るを実践した著者に勇気づけられました。

海竜社

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞